群馬県理学療法士協会ニュース

THE GUNMA PHYSICAL THERAPY ASSOCIATION NEWS

発行日　2023.6.1
発行者　山路　雄彦
発行所　一般社団法人
群馬県理学療法士協会事務局
群馬県前橋市大渡町 1-10-7
群馬県公社総合ビル 6F
源流題字　浅香　満
編集責任者　榊原　清

源流

No.154

Contents

■理学療法アラカルト「前庭リハビリテーション」　加茂智彦　・・・　02
■理学療法士のワークライフバランスを考える　ワークライフバランス部　・・・　03
■地域包括ケアシステムって何ですか？①　安齋一也　・・・　04
■地域包括ケアシステムって何ですか？②　石橋邦雄　・・・　05
■書籍紹介「園部俊晴の臨床『膝関節』　多田侑平　・・・　07
■職場紹介「リハビリスタジオ群馬」　高草木信太朗　・・・　08
■後輩理学療法士へ　中島征也　・・・　09
■お知らせ「源流」執筆での登録理学療法士更新ポイントの取得について　・・・　10
■第 3 回災害支援とリハビリテーションに関する研修会開催
■令和 4 年度小児リハ部研修会開催　・・・　11
■令和 4 年度東毛ブロック施設間連絡会開催　■第 8 回介護予防推進に資する指導者養成研修会開催
■令和 4 年度中毛ブロック施設間連絡会開催　・・・　12
■第 2 回事例検討会(後期研修 E 講座)開催　■第 49 回基礎講座・症例検討会開催
■第 50 回技術講習会開催　・・・　13
■第 8 回介護予防の推進に資する地域ケア会議研修会開催　■会員動向　■ニュース収受・・・　14
■編集後記　・・・　15

理学療法アラカルト

「前庭リハビリテーション」

群馬パース大学リハビリテーション学部

加茂　智彦

前庭リハビリテーションは、アメリカでは理学療法の専門分野の一つとして確立しており、多くの臨床現場で実施されています。一方、わが国において理学療法士の卒前・卒後教育、臨床の現場において、前庭リハビリテーションに関して接する機会はほとんどないと思われます。理学療法中にめまいやふらつきを訴える患者がいても、なんとなく流してしまっている方が多いのではないでしょうか？
本原稿を通して、前庭リハビリテーションを多くのめまい患者へ提供するための足がかりとなれば幸いです。

【前庭リハビリテーションとは？】

前庭リハビリテーションは前庭障害患者のめまいの軽減、バランス改善、転倒リスクの軽減、頭部運動時の視線安定性の改善を目的に行われます。前庭リハビリテーションは主に末梢前庭障害の方を対象としたリハビリですが、最近の研究では中枢神経疾患(脳卒中や多発性硬化症、パーキンソン病、背髄小脳変性症)、整形外科疾患、加齢性変化など多くの分野で効果があることが分かり、適応となる対象が広がっています。コクランレビューでは末梢前庭障害患者に対する前庭リハビリテーションはめまい症状の軽減、視線と姿勢安定性の改善、転倒リスクの軽減に関して中等度から強いエビデンスがあると結論付けています[1)]。現在の前庭リハビリテーションは、①視線の安定を促進する運動(適応運動と代用運動を含む視線安定化運動)(図 1)、②症状を慣らす運動(慣れの運動)、③バランスと歩行を改善する運動(バランスと歩行運動)、④耐久性を高めるための歩行の 4 つの異なる運動要素を組み合わせた運動ベースの方法が主流となっています。アメリカの理学療法士協会の神経理学療法学会が発行しているガイドライン[2)]もあり、エビデンスから具体的な実施方法までくわしく載っていますので、ご興味のある方は読んでみてください。

固定された視標(カード)に視線を合わせ，視線をそらさないで頭部の運動を行う

図1　視線安定化運動

【日本前庭理学療法研究会とは】

日本での前庭リハビリテーションの普及・研究を目的に私たちは 2021 年に日本前庭理学療法研究会を設立しました(URL：https://www.jvpt-shince2021.net/)。この研究会では、実践セミナーや学術集会を通して、前庭リハビリテーションの普及、エビデンスの構築を行っています。ご興味のある方は是非入会を検討してください。

引用文献

1．McDonnell MN, Hillier SL. Vestibular rehabilitation for unilateral peripheral vestibular dysfunction. Cochrane Database Syst Rev. 2015;1:Cd005397.

2．Hall CD, Herdman SJ, Whitney SL, et al. Vestibular Rehabilitation for Peripheral Vestibular Hypofunction: An Updated Clinical Practice Guideline From the Academy of Neurologic Physical Therapy of the American Physical Therapy Association. J Neurol Phys Ther. 2022;46(2):118-177.

理学療法士のワークライフバランスを考える

「ワークバランス部設置の経緯と今後の方向性」

会長　山路　雄彦

今回、会長として、ワークライフバランス部の設置の経緯と今後の方向性について寄稿いたします。

群馬県理学療法士協会（以下、群馬県士会）が所属する公益社団法人日本理学療法士協会関東甲信越ブロック協議会（以下、関ブロ）には、「働きやすい環境創り検討委員会」があります。「働きやすい環境創り検討委員会」の前身は「女性理学療法士の会」の名称で、主に女性の働き方に関する意見を出し合い、その課題や対処方法を探ることをしていました。この会を私が関ブロ協議会長であった６年前に、対象を女性だけでなく、内容も広く、理学療法士全体の働き方や生き方について検討することを目的として「働きやすい環境創り検討委員会」が設置されました。群馬県士会では、このことに伴いワークライフバランス部を設置して「働きやすい環境創り」に対応することとしました。しかし、「働きやすい環境」とは、相当広い領域に跨がる課題であるため、具体的に何を指すのか明確ではありません。このことから各都県士会で、統一した活動内容とはなっていません。「働きやすい環境創り」に対応する部局がない県士会もあります。「働きやすい環境創り」の活動内容は各士会によって様々です（表）。

・ワークライフバランスに関するアンケート調査（6 士会） ・研修会開催（6 士会） ・会員向け情報誌･HP への寄稿（3 士会） ・相談窓口準備（2 士会） ・育児休業割引の無料化（1 士会） ・育児休業割引の手続簡素化（1 士会）	・ハラスメント対策（1 士会） ・復職支援の相談会（1 士会） ・Twitter の使用（1 士会） ・若年会員と会長が語り合える機会の設定（1 士会） ・地域での小規模な茶話会の開催（1 士会）

多くの士会がアンケート調査を実施して、自士会の会員の意見を参考に活動内容を模索している状況です。この中で一つ一つ課題を拾い集め、解決の糸口を探していくことにしていると思われます。多様な取り組みをしている先進県では､ワークライフバランスに関する活動を既に 17 年間継続しています。その中には、「妊娠中の身体の変化の知識を知り、働き方を考える」､「働き続けるためにコミュニケーションを見直そう」などのテーマを掲げて交流会を６年間開催し続けているようなものもあります。

ここまで関ブロの各士会の活動内容を示してきましたが、群馬県士会のワークライフバランス部では、アンケート調査や研修会開催など他の士会に劣らない活動をしています。「働きやすい環境創り」に関する活動内容は、表にあるだけでなく、さらに多岐に渡ります。今後、関ブロ会員に対する統一したアンケート調査を実施して、会員に必要な活動内容を明らかにすることが決まっています。また、このような調査を経なくても、県士会員の皆様の働く環境などでの問題などがありましたら、ぜひ、ワークバランス部や事務局、会長にご意見を頂きたいと思います。当面のワークライフバランス部での活動は、他士会で行われている内容を実施していき、将来的には会員の皆様の現実に即した活動内容としていきたいと考えております。

地域包括ケアシステムって何ですか？①

吾妻地域リハビリテーション広域支援センターの取り組みのご紹介

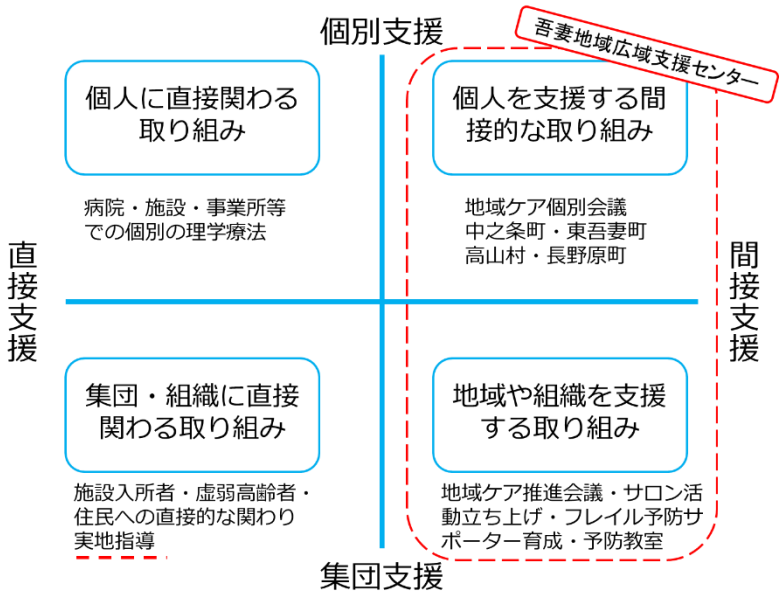
群馬リハビリテーション病院　　安齋　一也

（吾妻地域リハビリテーション広域支援センター）

地域包括ケアシステムは、医療、介護、生活支援・介護予防を住み慣れた地域で包括的に提供する体制を整え、地域特性に合わせた支援を切れ目なく展開することです。寝たきりを極力作らず、元気な人々を増やす事で、地域力の向上・健康寿命の向上・地域共生社会の実現などを図ることが目標です。

病院や施設で個別の理学療法をしていても地域に復帰をする場合には、家族・事業所職員・ケアマネジャー、通院先の理学療法士等、患者さんに関わる多くの方々と連携を図り、情報提供や技術・方法の伝達をされていると思います。理学療法士が行う普段の業務も、地域包括ケアシステムの一部を担っているのです。しかし、個別の理学療法では手が届かない方々がいるのも事実です。広域支援センターはリハビリ専門職と市町村を繋ぐ窓口となり、地域の特性や状況に合わせたリハビリテーションの展開を支援しています。

吾妻地域で地域包括ケアシステムを実現するにあたり、山間部且つ管轄範囲が広いことが、大きな問題です。更に少子高齢化と人口減により、面積あたりの事業所数は非常に少なくなります。つまり自助や互助での健康維持活動が重要な地域となるわけです。そこで重要なのは後押しをしてくださる方々の存在です。吾妻地域リハ広域支援センターでは、年間４回ほどセラピスト交流会を開催し、勉強会を行うことで顔が見える関係をつくり、協力しやすい環境作りをしています。実際に多くの病院・施設や専門職の協力を得て運営しています。



個別の理学療法
【自主トレ指導】
【介助方法伝達】

協力者・支援者サポート
【介護技術講習】
【フレイル予防サポーター育成研修】
【オムツ交換教室】

協力者・支援者ネットワークづくり
【吾妻セラピスト交流会】
【地域ケア会議】
【地域リハ推進協議会】

地域への関与・社会への働きかけ
【サロン立ち上げ事業】
【介護予防教室】

吾妻地域リハ広域支援センターの主な活動は上記の図のように間接的支援が主体となります。地域や組織を支援する取り組みや個別対象者を間接的に支援する取り組みへのセラピスト派遣を実施しています。また集団・組織に直接関わる取り組みとして実地指導を行っています。さらに直接支援として、自治体からの派遣要請を受けてリハビリ専門職が介護予防教室等で、地域住民と関わる活動も実施しています。

超高齢化と人口減少が進む吾妻において、サロン（通いの場）の展開は重要なフレイル予防の基盤です。地域住民が誰でも頑張らずに運営できるシステム・環境・ネットワークの構築が最大の課題と考えています。

地域包括ケアシステムって何ですか？②

富岡甘楽地域リハビリテーション広域支援センターの取り組み

公立七日市病院　　石橋　邦雄

（富岡甘楽地域リハビリテーション広域支援センター）

主な活動内容

富岡甘楽地域リハビリテーション広域支援センターでは、地域リハビリテーション推進協議会への参加、圏域の病院・施設向けの研修会の開催、介護予防サポーターの養成講座の講師、介護予防事業への参加（講演、フレイル検診)、地域ケア会議（自立支援型個別ケア会議)への参加、訪問型サービスＣの実施に関わっています。

現状と課題

今なお続くコロナ禍において、一時はほとんどの活動が中止せざるを得ない状況となっていましたが、現在では感染対策に留意した中での現地開催の他、書面やオンラインの併用によって概ね再開されています。４ つの市町村（富岡市、甘楽町、下仁田町、南牧村）の事業に携わっており、各市町村によって頻度や内容に差はあるものの、いずれも富岡甘楽支援センターの２名（自分、OT 櫻井氏）に加えて、一部七日市病院のスタッフに協力して頂きながら対応しています。

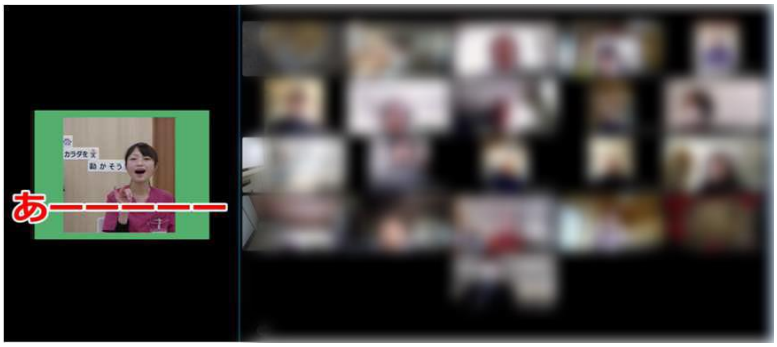
具体的な対応例として介護予防サポーター育成講座や各種介護予防事業に関して挙げますと、各市町村の担当者（地域包括支援センターの担当者が主）と直接やりとりして講演の内容や方向性を決め、あとは当方で資料作成をし、実際に対象者の方々へ講演をしています。受講する対象が介護予防サポーターの方々の場合と、そうではない一般の住民の方々とでは、年齢層だけでなく介護予防への理解度等にも差があるため、受講対象者に応じて講演内容に工夫をしています。内容の実例として南牧村のフレイル予防事業を挙げますと、一般住民へ向けて「身体の健康と運動について」というタイトルで、主に加齢に伴う身体の変化と、それを予防していくにはどういった運動が良いのかということに焦点を当てた内容にしました。村の３か所で分けて開催されたのですが、いずれも参加が 10～20 名程度の少人数と

いうことに加え、一部個別に指導できる時間も設けたことで、わかりやすく実践的で、運動の重要性が感じられる内容となり、理解が非常に深まったのではないかという手応えがありました。参加者にご好評を頂いたとのことで、2023 年度は受講対象を広げて若い層の方々にも講演をしてもらえないかとのご依頼を頂いており、担当者と新規事業として相談をしているところです。

地域ケア会議への参加も各市町村で定期的に開催されていたり、上記の他にも市町村から希望の来ている新規事業もある状況のため、現在のマンパワーでは対応しきれていないのが現状です。この広域では協力病院との連携が上手く行えていないのが大きな課題で、それに反して需要はある状況のため、早急に連携とシステム作りを進めていかなければならないと日頃から感じており、今年度どのように進めていくかを目下検討中です。

「オンライン通いの場」の実証事業

一昨年度から群馬県の実証事業として「オンライン通いの場」が開始されました。「通いの場」とは、高齢者をはじめ地域住民が、他者とのつながりの中で主体的に取り組む、介護予防やフレイル予防に資する活動・集まりの場ですが、コロナ禍において各所で中止となったケースが多かったようです。通いの場が開催されなくなり、閉じこもりがちとなった高齢者へ向けて、オンラインで行うことが可能かどうかを検証した事業が、当事業になります。群馬県では最初に甘楽町、次いでみどり市で行われました。内容としてはスマートフォンの操作説明・練習に始まり、各種介護予防関係の講話（フレイルや認知症予防等）やストレッチや筋トレ、コグニサイズ等の他、毎回、意見交換・交流会がありました。参加者がテーマに沿った写真を投稿し、その話題に触れたり、皆で交流するなど、参加者がとても楽しんでいる様子が伺えました。実施していく中で課題として見えてきたことは、高齢者に方々にとってはまずスマートフォンの操作に難渋することが多く、その指導や練習にかなりの時間が必要だった点です。また今回は端末を無償貸与されていましたが、実際に行うとなると所持していない高齢者も多く、購入の手続きや費用の問題等、クリアしなければならない課題は多いように感じました。しかし、一旦慣れてしまえば、参加者が自ら講義の内容を後で復習することができたり、体操の動画を好きなときに見返して自己練習できるなど、オンラインならではの活用法も聞かれ、今後実際に広く実践されていくことが期待される大変有益な事業でした。



「オンライン通いの場」の様子

（口腔フレイルの講話．参加者の顔はぼかしています）

「地域包括ケアシステム」という一括りの言葉だけでは漠然としたイメージが先行し、具体的な内容が見えにくく感じていましたが、行政や地域住民の方々と関わっていく中で、色々と見えてきたこと・学べたことが多いです。皆様も機会があれば是非積極的に関わってみてください。

******書籍紹介******

「園部俊晴の臨床『膝関節』」

公立館林厚生病院　多田　侑平

著者名：園部俊晴
出版社：運動と医学の出版社
価格：６６００円＋税

初めまして、公立館林厚生病院の多田侑平です。当院で働き始めて、８年目になりました。急性期、回復期を経験し、現在は回復期に従事しております。さて今回、ご紹介させて頂きたい書籍ですが、園部俊晴の臨床「膝関節」です。一昨年の２月に発売された比較的新しい書籍です。園部俊晴先生は、下肢障害の治療を専門としており、一般からプロスポーツ選手まで幅広い方に支持されています。身体運動連鎖や歩行に関する研究や文献多数出されており、以前から園部俊晴先生の文献を参考にさせて頂くことがありました。当院では整形外科疾患の患者様を診る機会が比較的少なく、膝の痛みで思うように治療が進まない症例を経験したことが決め手で購入しました。

この本は、全５章から構成されており、はじめに第１章で臨床における仮設検証の重要性を述べ、第２章で臨床推論における評価を紹介しています。まず、この書籍の大きな注目ポイントとして、膝関節について「組織学的視点」と「力学的な視点」という２つの側面から丁寧に解説していることです。

次に、第３章で痛みを生じやすい組織を９つ挙げてそれぞれの評価と治療方法を各論的に解説しています。評価や治療方法などイラスト付きで分かりやすく書かれているため臨床場面ですぐに活用できると思います。

第４章では膝関節の伸展、屈曲制限の改善方法を分かりやすく解説しています。私自身も変形性膝関節症やＴＫＡ後の患者様を介入する際、臨床で活用させて頂き、治療効果を肌で感じているところです。

第５章では「膝関節過外旋症候群」と「変形性膝関節症」という代表的な膝の症状に対する評価と治療法について、深掘りして解説されています。徒手療法だけでなく、テーピングやインソールパットを用いて治療していく充実した内容であり、様々な治療法を学ぶことが出来ます。臨床で携わることの多い、この２つの症候群の内容を理解することによって膝関節疾患に対する自信が強くなること間違いないと思います。

最後に、各章で評価方法や治療方法を動画で見て学べるように、ＷＥＢ動画のＱＲコードが掲載されています。動画を利用し評価方法や治療方法を自分のものに出来るのではないでしょうか。日頃から整形外科疾患の治療に携わっている方、ご興味を持たれた方は、是非一読してみてはどうでしょうか。

職場紹介

リハビリスタジオ群馬

高草木　信太朗

リハビリスタジオ群馬は群馬県初の保険外リハビリ専門施設となります。令和４年４月１５日に前橋市小相木町にオープンし、今年の４月で１周年を迎えることができました。オープン以来、大変多くの方にご利用いただいており、今では近隣のケアマネジャーや回復期病院からご紹介をいただくようになりました。何よりも嬉しいのは、法人外の理学療法士の方からご紹介を受けることもあり、需要の高さを感じております。

当施設の理念として『可能性を引き出すリハビリ、諦めないリハビリ』をモットーに、目標達成に向けて、ご利用者様に寄り添い真剣に向き合っていくことを掲げています。
特徴としては、①マンツーマンで最大１２０分のリハビリを支援しています。関連する角田病院で経験や研鑽を積んだセラピストが利用者様の目標達成に向けて支援していきます。②脳梗塞後遺症である運動麻痺や歩行障害に効果的といわれている川平法やロボットスーツHAL®、国内３台目に導入した体重免荷型トレッドミルを取り入れています。最先端のリハビリ機器を取り揃え、身体機能の改善を目指し、生活の質の向上に繋がるようにサポート体制を整えています。③年齢や疾患にとらわれずリハビリを受けたいと願うすべての方が対象になります。保険内のリハビリは疾患別期限、年齢、介護度等によりリハビリに制限が生じてしまいます。しかし、保険外の当施設は全年齢・全疾患の方が対象になり、納得するまでリハビリを受けることができます。

リハビリスタジオ群馬の利用者様は県内外から脳梗塞後遺症の方を中心に年齢や疾患も多岐にわたります。保険内リハビリと併用して利用されている方も多くいらっしゃいます。ホームページには、川平法、HAL®の紹介動画や利用者様の改善事例等があります。ぜひ一度ご覧になってください。今後も脳梗塞・脳出血、脊髄損傷や神経難病等の後遺症に悩み、改善を願う方々の新たな選択肢として納得いただけるサービスを提供できるように研鑽していきます。

後輩理学療法士へ

医療法人パテラ会　月夜野病院
中島　征也

皆さん、こんにちは。みなかみ町にある医療法人パテラ会　月夜野病院に勤務している中島征也と言います。

理学療法士として５年目を迎え、入職してから回復期病棟・急性期病棟を経験し、現在は外来を中心に働いています。私自身経験年数がわずかではありますが、今回このような機会を頂きましたので、私の経験をもとに自信と心のゆとりについてお話させていただきます。

私は学生時代から自信がなく、常に不安や緊張を感じながら患者様と関わっていました。しかし、そんな状態では上手にコミュニケーションが取れず、治療結果も思うようにいきませんでした。そして家に帰ってからも翌日の事を考えてしまい、落ち着かない状態でした。その中で実習中に言われた『こちらの緊張や焦りは患者様に伝わってしまう』という言葉を思い出しました。それからは、患者様の前では落ち着いて行動し接するように心がけました。また、わからないことは職場の先輩方に相談し、先輩方の良いところを真似するようにしました。すると徐々に不安が減り、自信をもって患者様と接することができるようになっていきました。

この経験から１年目・２年目の人たちに伝えたいのは、患者様の前に出たら経験年数にかかわらず理学療法士として治療をしなくてはならないということです。患者様はリハビリテーションに対して期待を抱いています。私たちはその期待に応え続けなければならず、それには様々な知識や技術が必要となります。しかし、経験の少ないうちは一人で対応するのは難しく、そういう時こそ職場の先輩の姿を見て、相談してください。その中でいいと思ったことを一つずつ模倣していってください。そうすることで、少しずつ自分の自信に繋がっていくと思います。

そして、もう一つ大切なことは頑張りすぎないことです。常に仕事のことを考えて頑張りすぎてしまうと、必ずどこかで限界が来てしまい、余裕がなくなってしまいます。そのため適度に力を抜き、休日は自分の好きなことに使ってください。そうして気持ちや身体をリセットすることで仕事においても精神的な余裕が生まれてくると思います。

最後に理学療法士としての自信や心のゆとりを持って患者様に接することでより良い治療結果が得られると思うので、まずは先輩方の模倣や、自分に合ったワークライフバランスの構築をしてみてはどうでしょうか。

ニュース編集部からのお知らせ

「源流」執筆での登録理学療法士更新ポイントの取得について

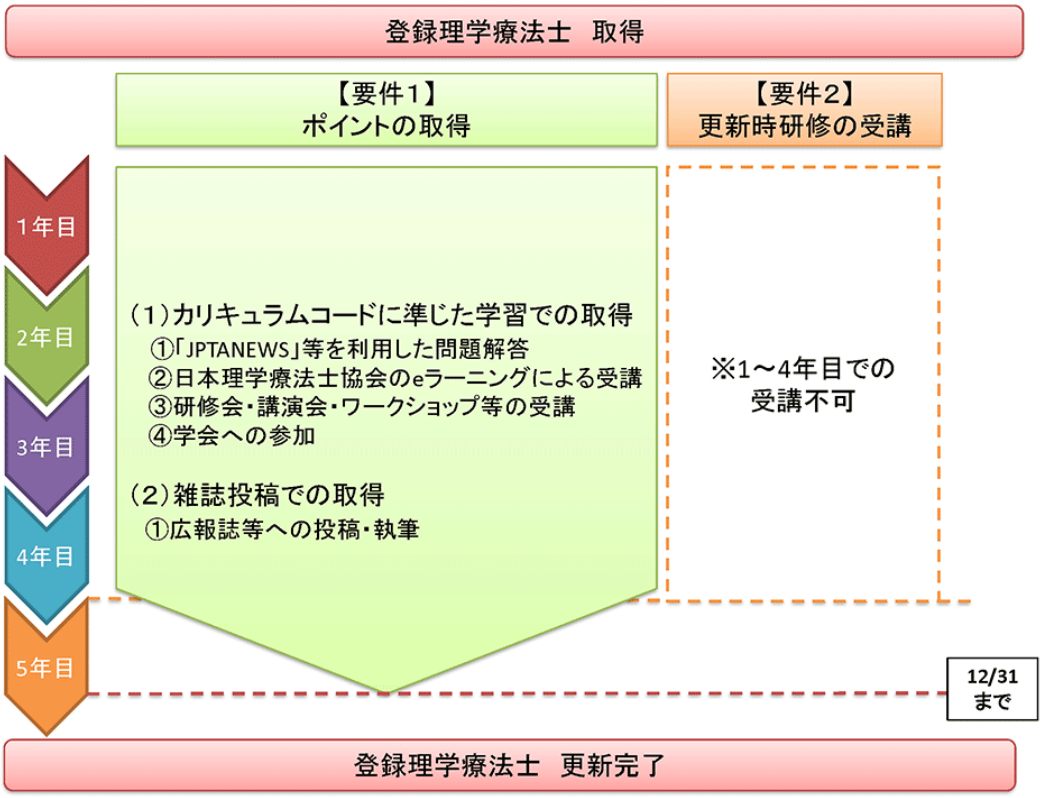
平素は群馬県理学療法士協会ニュース編集部の運営にご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

さて、表題の件につきましてお知らせがございます。新生涯学習制度への移行にあたり、昨年度より本誌への投稿でも登録理学療法士の更新ポイントの取得が認められることとなりました。執筆にご協力いただいた登録理学療法士の方には、１つの号につき最大１ポイントまで取得が可能となっています。理学療法アラカルトをはじめ書籍紹介や職場紹介等の各コンテンツでの執筆、研修記録の執筆でもポイントの取得が可能となっています。ぜひ本誌への執筆にご協力していただき、更新ポイントの取得に繋げていただければ幸いです。

執筆のポイント申請につきましては、ニュース編集部でリストを作成し、生涯学習部にまとめて申請を依頼していきます。日本理学療法士協会への申請については、自身での手続きは不要となっております。ポイント申請に伴い、カタカナフルネームと会員番号の確認が必要となっております。登録理学療法士を取得されている執筆者の方は原稿提出の際に、上記項目をニュース編集部部員まで教えていただければ幸いです。

新生涯学習制度については本誌 No.146～No.149 にて群馬県理学療法士協会生涯学習部より「新生涯学習制度について」の連載が組まれておりますので、そちらもご確認いただければと思います。

今後とも群馬県理学療法士協会ニュース編集部の活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。



＜図１．登録理学療法士の更新イメージ＞
※日本理学療法士協会会員ページ新生涯学習システムより引用

群馬県理学療法士協会ニュース編集部部長　　石関　直忠

研修会報告

群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会「第３回災害支援とリハビリテーションに関する研修会」　開催

令和５年１月18日と20日に第３回　災害支援とリハビリテーションに関する研修会がオンラインにて開催されました。群馬パース大学　作業療法学科　准教授　宮寺寛子先生から「災害支援におけるリハ職の役割について」ご講義いただきました。講義では自身の災害ボランティアでの経験を踏まえて、災害を予測するための基本的知識や災害後に住民の生活を一日も早く復興させるために、リハ専門職が今やっておくべき取り組みについて教えていただきました。

災害に対しては「行動変容ではなく意識変容」「いかに早く平時の状態に戻すか」が重要であるとのお話があり、リハ専門職や施設に対して予測できる課題や備えについて改めて考える機会となりました。また、クライエントに対して予測できる課題や備えについても分かりやすくご講義いただきました。

もし自身が所属している施設が被災地域となった際に、リハ専門職としてクライエントの支援継続が最も重要な使命であることを再認識しました。そのために自身の意識変容を進め、自施設での情報交換や近隣施設との連携を深めていかなくてはと感じました。

令和４年度小児リハ部研修会　開催

令和５年１月22日に地域局小児リハビリ部研修会がオンラインにて開催されました。「小児理学療法におけるパラダイムシフトと評価の活用」について 大阪保健医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 藪中 良彦先生よりご講義いただきました。

今回の研修会では、小児理学療法において世界的にみて日本は評価が十分でなく、ハンドリング優位になっている現状があるため、パラダイムシフトしていかなければいけないとのお話しがありました。日本の診療体制上や教育の過程の問題もあり、理学療法士が原因を理論的に裏付けできていないなどの課題をお聞きして、自身の診療に対して考える機会となりました。

また、発達が障がいされた子どもたちに対して子どもの能力面に対するアプローチに偏るのではなく、課題遂行に焦点をあて環境や課題を含めて、問題解決に対してコーチングしていくことが重要であり、考え方のアップデートや普段の臨床のヒント、評価方法等についてご講義いただきました。

講義内では、実際の臨床場面で評価法を使用して良かった点や困った点、今後の課題などについて、小児リハ部員の小川克行先生、馬場恵子先生、髙野真美先生の３名の先生方に発表していただきました。

令和４年度東毛ブロック施設間連絡会　開催

令和５年１月27日に令和４年度東毛ブロック施設間連絡会がオンラインにて開催されました。「急性期・回復期・生活期における病期間連携について」急性期から桐生厚生総合病院　橋場聡志先生、回復期から恵愛堂病院　森下大先生、生活期から介護老人保健施設　ふじあく光荘　中嶋憲先生の３名の先生方より、各病院の施設紹介や各期での働き、連携パス等について、それぞれの先生にご講義いただきました。

また、スタッフの意識調査としてアンケートを取った結果を踏まえて、施設内の転科や他病院への転院時の申し送り事項で行っていること、気を付けていることなどを解説いただきました。その後のディスカッションでは各施設間で求めること、疑問、質問など意見交換が行われ、顔の見える長い関係づくりが重要であると感じました。

群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会「第８回介護予防推進に資する指導者養成研修会」　開催

令和５年２月９日と10日に第８回介護予防推進に資する指導者養成研修会がオンラインにて開催されました。東京都健康長寿医療センター研究所　小原由紀先生から「オーラルフレイルについて」ご講義いただきました。講義では健康寿命延伸のキーワードのひとつである「オーラルフレイル」について、ライフコースと口腔保健や口腔機能低下症の診断基準など分かりやすく教えていただきました。

また、通いの場での口腔機能低下の実態や広島県竹原市の通いの場における歯科衛生士の取り組みについて解説いただき、他職種連携が重要であると改めて感じました。

そして、歯数・義歯使用と転倒との関連や口腔機能と認知機能との関連などについてもお話いただき、高齢期における口腔保健の目標を達成しつつ、身体能力、認知機能、栄養状態に広い視野を持って関わり、健康寿命を延ばすことが重要であると感じました。

令和４年度中毛ブロック施設間連絡会　開催

令和５年２月10日に令和４年度中毛ブロック施設間連絡会がオンラインにて開催されました。「臨床研究の始め方」をテーマに群馬パース大学　林翔太先生にご講義いただきました。

卒業研究などで学生の頃に学ぶ機会があっても、臨床に出ると目の前の患者や理学療法の周辺業務で忙しくなり、研究を行う機会がなかなか無い中で、このような研修会に参加することができ、研究に対してのハードルが少し低くなったように感じました。また、講師の先生の経験の中でどのように臨床研究を続けてこられたのか、情報収集の方法などのお話しいただき、臨床研究を続けていくために個人で取り組むべきこと、施設として取り組めることなどを具体的に教えて頂きました。

講義後には各施設でどのように研究について取り組んでいるのか、どのような悩みがあるのかなど各施設での問題点をディスカッションし共有することができ、とても有意義な研修となりました。

第２回事例検討会（後期研修Ｅ講座）　開催

令和５年２月１２日に第２回事例検討会(後期研修Ｅ講座）が群馬大学で実施されました。コロナ禍で zoom 等を利用したウェブ研修が増えている中、今回は実地での開催となりました。３名の先生より、内科系疾患１症例、神経系疾患２症例で発表いただきました。開始時は会場内やや緊張した雰囲気でしたが、徐々に聴講者からの質問等も活発になり、先生方からの質問やご指導等も新たな発見や勉強になる点が多く、有意義な検討会となりました。

（わかば病院　関口伊代）

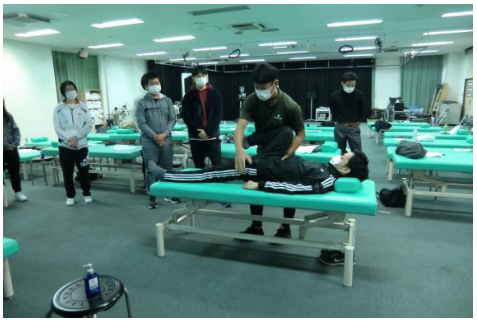
第 49 回基礎講座・症例検討会　開催

令和５年２月 26 日に第 49 回基礎講座が開催されました。「糖尿病を合併する患者の理学療法の実際」を題に、聖マリアンナ医科大学病院　平木幸治先生より講義していただきました。糖尿病に対する基礎的な病態から血糖コントロールについて、CKD・透析患者の実際等具体的な数値や評価、注意点なども含めて説明いただきました。講義最終では症例を提示しながら具体的なフィジカルアセスメントや運動処方などがあり、臨床ですぐに実践できる内容も多々あり、大変勉強になりました。

午後は症例検討会として、群馬大学医学部附属病院　浅野翔平先生、群馬リハビリテーション病院　池田慎先生、医療法人相生会わかば病院　石井美由紀先生、日高病院　小杉寛先生にそれぞれ発表いただきました。

（わかば病院　関口伊代）

第 50 回技術講習会　開催



令和５年３月４日（日）、高崎健康福祉大学にて第 50 回技術講習会が開催され、TESERA 六本木の武原直利先生を講師に、「PNF の基礎について」をテーマにご講義いただきました。コロナ禍ではありましたが、十分な感染予防対策を講じたうえで、久しぶりの実技形式での研修となりました。PNF の哲学や原理はもちろん、テクニックについてもご講義いただきました。パターンなどのテクニック以外でも、対象者への接触の仕方や運動方向、抵抗のかけ方など、基礎的な部分を中心にご解説、ご指導いただきました。PNF と聞くと難しいイメージがありましたが、具体例や実技を交えて解説していただけたため、翌日から実践したくなるような充実した研修でした。

（わかば病院　星野文哉）

群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会
「第８回介護予防の推進に資する地域ケア会議研修会」開催

令和５年３月24日と27日に第８回　介護予防の推進に資する地域ケア会議研修会がオンラインにて開催されました。群馬県 POS 連絡協議会　会長　山路雄彦先生より「群馬県における地域ケア会議の現状について」、地域ケア会議におけるリハ専門職の役割や実際の群馬県の地域ケア会議推進リーダーの推移や今後の方向性についてご講義頂きました。また、保険事業と介護事業での連動した展開が今後重要であることなども学ぶことができました。

また、株式会社アイトラック　代表取締役　佐藤孝臣先生から「地域ケア会議の役割と今後の展望」～リハ専門職と自治体との連携を目指して～　をテーマに、まず、介護保険法の目的や介護保険における保険者等の役割について再確認しました。そして、自治体としてどのように地域ケア会議を運営していくべきか、地域の深刻な課題をどう解決していくかなどについてご講義いただきました。地域ケア会議に参加するにあたり、普段の業務の中から社会人の常識を守ること、説明力を高めること、療法士以外の専門知識の習得などに努めていかなくてはと感じました。

会員動向

令和５年５月10日現在
会員数 2,080 名、休会 304 名、施設数 369 施設

ニュース収受

2023/1/27	群馬県医師会報 No894	群馬県医師会
2023/1/27	兵庫県理学療法士会　士会だより　No.198	兵庫県理学療法士会
2023/1/31	法人設立 25 周年･創立 50 周年記念誌	神奈川県理学療法士会
2023/2/3	理学療法兵庫 No.28 2022	兵庫県理学療法士会
2023/2/7	群馬県作業療法士会ニュース　第 151 号	群馬県作業療法士会
2023/2/7	愛知県理学療法士ニュース　208	愛知県理学療法士会
2023/2/21	REGAC Vol.14	広島県理学療法士協会
2023/2/27	岐阜県理学療法士会ニュース「らいちょう」No.143、144	岐阜県理学療法士会
2023/2/27	群馬県医師会報 No.895	群馬県医師会
2023/2/28	JPTA NEWS Vol.341	日本理学療法士協会
2023/2/28	熊本県理学療法士協会　広報誌「かくどけい」Vol.141	熊本県理学療法士協会
2023/3/3	大阪府理学療法士会ニュース第 296 号	大阪府理学療法士会
2023/3/3	第 51 号　神奈川県理学療法士会会報　理学療法技術と研究	神奈川県理学療法士会
2023/3/7	滋賀県理学療法士会ニュース　No.222	滋賀県理学療法士会
2023/3/22	静岡県理学療法士会 NEWS　ゆまにて No197	静岡県理学療法士会
2023/3/22	兵庫県理学療法士会だより No199	兵庫県理学療法士会
2023/3/22	群馬県言語聴覚士会ニュース 72 号	群馬県言語聴覚士会
2023/3/27	岐阜県理学療法士会学術誌第 27 号	岐阜県理学療法士会

2023/3/27	ゆきわり草 No202	新潟県理学療法士会
2023/3/29	群馬県医師会報 No.896	群馬県医師会
2023/4/4	山梨県理学療法士会会誌 No.161	山梨県理学療法士会
2023/4/4	和歌山県理学療法士協会ニュース No.98	和歌山県理学療法士協会
2023/4/7	高知県理学療法第 29 巻	高知県理学療法士協会
2023/4/4	山梨県理学療法士会会誌 No.161	山梨県理学療法士会
2023/4/4	和歌山県理学療法士協会ニュース No.98	和歌山県理学療法士協会
2023/4/7	高知県理学療法第 29 巻	高知県理学療法士協会
2023/4/10	茨城県理学療法士会令和 4 年度 No.4（No.179）	茨城県理学療法士会
2023/4/14	秋田県理学療法士会　創立 50 周年記念誌	秋田県理学療法士会
2023/4/18	神奈川県理学療法士会ニュース　No.295	神奈川県理学療法士会
2023/4/20	秋田県理学療法士会ニュース第 208 号	秋田県理学療法士会
2023/4/25	ケアマネ群馬 No129	群馬県介護支援専門員協会
2023/4/27	群馬県医師会報　No.897	群馬県医師会
2023/4/28	JPTA NEWS　Vol.342	日本理学療法士協会
2023/4/28	秋田理学療法　Vol.30 No.1 2023	秋田県理学療法士会
2023/5/1	理学療法京都　No.52 2023	京都府理学療法士会
2023/5/1	愛知県理学療法士会ニュース　APTA News 209	愛知県理学療法士会
2023/5/2	広島県理学療法士会 No.273　One step	広島県理学療法士会
2023/5/2	大阪府理学療法士会ニュース　第 297 号	大阪府理学療法士会

＊＊＊編集後記＊＊＊

令和 5 年 5 月 8 日より、新型コロナウイルスの感染症法上の扱いが 5 類に変更となりました。一般社会では行動制限が緩和され、ポストコロナへの動きが進みつつあります。数年にわたり医療現場、介護現場だけでなく社会生活に多くの影響を与えた感染症ですが、現在の皆様の生活については変化がみられてきていますか？

先日参加させていただいた第 50 回技術講習会では、実技を含めた対面形式での開催となり、相手の表情や反応などを見ながら、PNF の技術について学ぶことができました。リモート形式での研修が多い中で、実技や対面形式によって得られる技術や知識も多くあるのと思います。

ポストコロナで加速するオンライン化、以前と同様にリアルでの開催、どちらも理学療法士にとっては重要で、この時代の変化についていかなければと感じています。

石関　直忠